

令和4（2022）年度及び第三期中期目標期間 業務実績等報告（原案）について

参考資料14

○地方独立行政法人制度における評価の仕組み

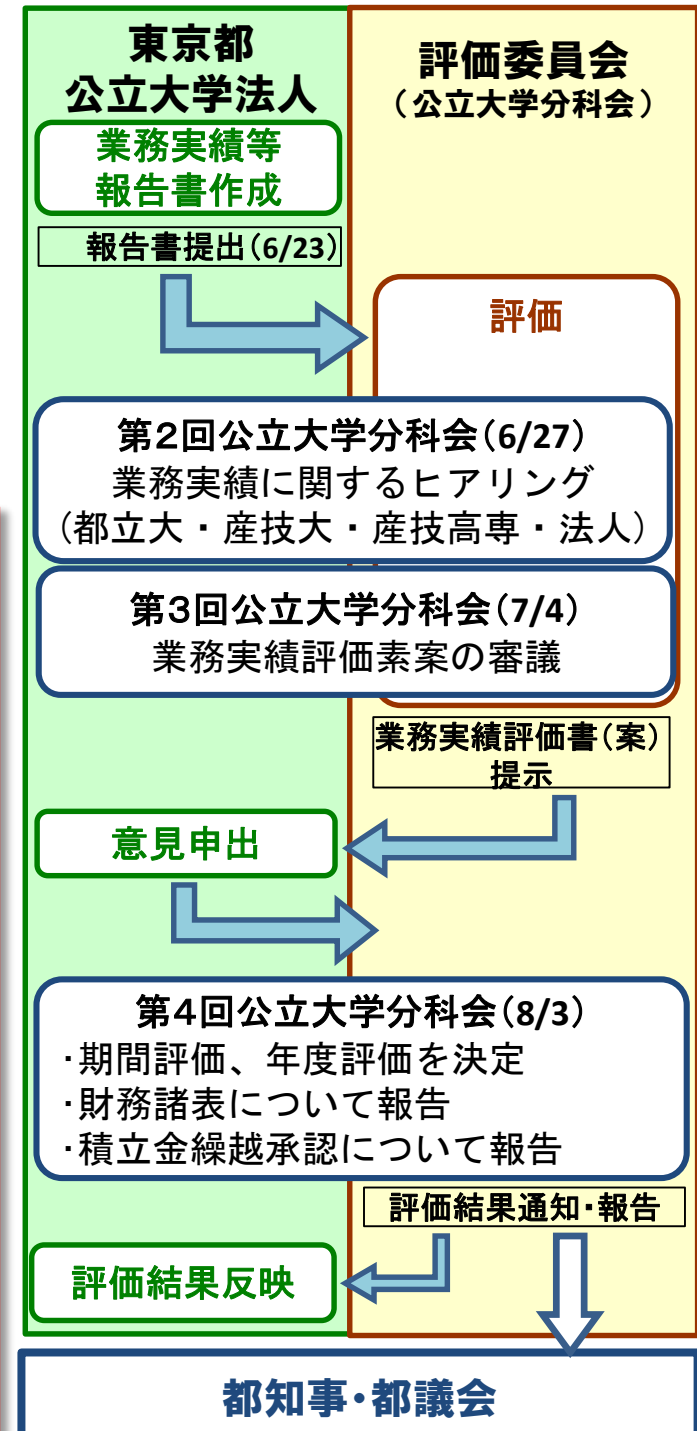
- ・地方独立行政法人法第78条の2に基づき、各事業年度の業務実績及びその自己評価結果を明らかにした報告書を評価委員会へ提出
- ・評価委員会は、業務実績等報告書等に基づき、評価（年度評価）を実施
- ・4年度目終了時には、中期目標期間終了時に見込まれる実績の評価（見込評価）を実施（令和3年度に実施済み）
- ・中期目標期間終了時には、中期目標期間中の実績の評価（期間実績評価）を実施

⇒今回は、令和4年度の年度評価に加え、第三期中期目標期間（平成29～令和4年度）の期間実績評価も実施

<自己評価の状況>

	第三期中期目標期間					令和4（2022）年度						
	項目数	S	A	B	C	D	項目数	S	A	B	C	D
東京都立大学	11	1 (9%)	2 (18%)	8 (73%)	0 (0%)	0 (0%)	54	4 (7%)	8 (15%)	42 (78%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 大学院大学	9	1 (11%)	6 (67%)	2 (22%)	0 (0%)	0 (0%)	20	2 (10%)	11 (55%)	7 (35%)	0 (0%)	0 (0%)
東京都立産業技術 高等専門学校	9	1 (11%)	5 (56%)	3 (33%)	0 (0%)	0 (0%)	23	2 (9%)	11 (48%)	10 (43%)	0 (0%)	0 (0%)
法人共通 (組織運営基盤)	6	0 (0%)	2 (33%)	4 (67%)	0 (0%)	0 (0%)	33	2 (6%)	8 (24%)	23 (70%)	0 (0%)	0 (0%)
合計	35	3 (9%)	15 (43%)	17 (49%)	0 (0%)	0 (0%)	130	10 (8%)	38 (29%)	82 (63%)	0 (0%)	0 (0%)

<業務実績評価の流れ>



業務実績等報告における自己評価

年度計画・中期計画の実施状況を検証し、S・A・B・C・Dの5段階で自己評価する等、業務実績等報告書を作成

評価	評語
S	計画を当初予定より大幅に上回って実施している。
A	計画を当初予定より上回って実施している。
B	計画を当初予定どおり実施している。
C	計画の実施状況が当初予定を下回っている。
D	計画の実施状況が当初予定を大幅に下回っている。

<令和4年度業務実績における自己評価Sの項目>

- 都立大
 - 【1-03】数理・データサイエンス副専攻コースの開設
 - 【1-07】ネットワーク回線の高速化などキャンパス学修環境の整備・拡充
 - 【1-14】障がいのある学生に対する支援体制の整備
 - 【1-22】オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信
- 産技大
 - 【2-11】積極的な情報発信等による高度専門職業人の資質を有する学生の確保
 - 【2-18】学修コミュニティの充実、社会人向けキャリアアップや学び直し場の提供
- 産技高専
 - 【3-01】職業教育プログラムの修了生輩出、社会人向け情報セキュリティ教育
 - 【3-11】地元区との協定による特別推薦入試制度の実施で4名の学生受入れ
- 法人共通
 - 【4-11】産技高専の教育研究組織の見直し等(3-00、3-01の再掲)
 - 【4-27】カーボンニュートラル推進プランの策定、環境報告書の作成・公表

<第三期中期目標期間の業務実績における自己評価Sの項目>

- 都立大【大項目2】 教学IR推進室設置、大学院博士後期課程の活性化に向けた取組
- 産技大【大項目16】効果的な広報活動による専門職大学院にふさわしい学生の確保
- 産技高専【大項目21】本科教育の再編、医工連携教育、2つの職業教育プログラム

都知事・都議会

令和4年度の主な実績（都立大）



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

■ 教育に関する取組 ～豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材の育成を目指し、教育改革を推進しました～

教育内容・実施体制

■ 教育研究等の質の向上

- ・特定のテーマ（防疫・防災、AI・人間、資源・エネルギー・環境）に基づき**文理の枠を超えて構成されるプログラムを履修する「文理教養プログラム」**について、令和5（2023）年度からの導入に向けた準備を整えました。（1-01 B）
- ・データサイエンス・AIの技術の本質を理解し、これらの技術を利用したサービスやシステムを課題解決のために活用できる人材を育成する**数理・データサイエンス副専攻コースを新たに開講**しました。<新規登録者数：86人>（1-03 S）
- ・文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロウシップ創設事業」及び国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」の実施により、研究専念支援金及び研究奨励費の支給、キャリアパス形成を支援するセミナーの開催等、博士後期課程の経済的支援及びキャリアパス支援の拡充を図りました。（1-06 A）

令和4年度S項目



【数理・データサイエンス副専攻コースリーフレット】

■ 学修環境の整備・拡充 **令和4年度S項目**（1-07 S）

コロナ禍において顕在化した回線逼迫を受けて、**都立大のインターネット回線を高速回線へ切り替える**とともに、国立情報学研究所が提供する情報通信ネットワーク（SINET）を利用することにより、**法人全体のネットワークをセキュアに接続できる環境を構築**しました。

■ 支援を要する学生に対する支援体制整備 **令和4年度S項目**（1-14 S）

- ・障がいに対する理解促進や支援スキル向上に係る取組として、学内の物理的バリアの点検と、それに係る支援スタッフの視座の獲得を目的とした**バリアフリーチェック講習会等を実施**しました。
- ・「**大学院入試における受験上及び修学上の配慮に関する手続等に係るガイドライン**」を作成し、大学院入試における障がい学生支援の提供に係る実施手順や募集要項の記載内容等についての見直しに着手しました。



【バリアフリーチェック講習会】

教育環境整備・学生支援

■ 入学者選抜に関する取組 ～質の高い学生の安定的な確保に努めました～

入学者選抜

■ 質の高い学生の確保（1-16 B, 1-17 A）

- ・令和5（2023）年度入試について、入学者選抜要項及び多様な選抜の各募集要項を作成し、公表しました。
- ・大学説明会（オープンキャンパス）について、WEB説明会に加え、予約制による入場人数制限や感染症対策を実施した上で、**コロナ禍以降初めての参集型の説明会を開催**し、ガイダンス個別相談及びキャンパスツアー等を実施しました。<参集型説明会来場者数：10,972人、WEB説明会閲覧数：32,226件>

【大学説明会における個別相談会の様子】

■ 高大連携等の推進（1-18 B）

東京都教育委員会との連携による共催事業「第5回都立高校生のための先端研究フォーラム」や東京都教育庁からの依頼事業「第4回理数研究ラボ」及び「第3回高校生探究ゼミ」を実施しました。<先端研究フォーラム参加者数：264人>

■ 社会貢献に関する取組 ～専門的知見を都政・都民へ発信・還元しました～

社会貢献・都連携

■ 東京都との連携や産学公連携の推進（1-31 B, 1-37 B）

- ・**東京都医学総合研究所との感染症対策に資する共同研究**や**東京都政策企画局との国際金融に関する共同研究**を実施しました。また、水素エネルギーに関する研究について、令和5（2023）年度からの開始に向け東京都と調整しました。
- ・都立大発ベンチャーの創出に向けて、講座の拡充や相談窓口の開設を行いました。

■ 東京都立大学プレミアム・カレッジの運営（1-40-2 A）

50歳以上のシニアを対象とし、最長4年間学び続けられる**東京都立大学プレミアム・カレッジを円滑に運営し、4年目の完成年度を迎えました**。また、令和5（2023）年度からの本科定員を50名程度から55名程度に増員しました。<本科選考（定員55名程度）：志願者数179名、志願倍率3.3倍>

■ 研究に関する取組 ～世界をリードする重点的な研究を支援・強化しました～

研究

■ 組織的な研究支援、研究環境整備（1-19B, 1-29 A）

- ・被引用度トップ10%論文比率向上に向けて、傾斜的研究費による支援、研究センター等への海外の研究者招へいや国際シンポジウム開催支援の実施等、研究力の強化を図りました。
- ・**南大沢キャンパスにおける研究機器共用化の試験運用を開始**するとともに、**新たに設置予定の日野キャンパス機器共用センターの運用体制等の整理**や、分離キャンパスにおける機器共用による効率化のため、**スマートラボ化の実証実験**に取り組みました。

対応報告事項

評価結果反映事項

■ 研究成果の発信 **令和4年度S項目**（1-22 S）

オープンユニバーシティにおいて、最先端の研究内容を紹介するため、研究センターシリーズ「科学が開く未来への扉」、都立大教員の専門的かつユニークな研究を紹介する「プレミアム講座」、全国の研究者等が講師として登壇する「オンラインスペシャル講座」を開講しました。

■ グローバル化に関する取組 ～国際通用性のある教育研究環境を整備しました～

グローバル化

■ グローバル化の推進（1-43 B, 1-46 B, 1-51 B）

学生の海外派遣及び外国人留学生受入れについて、コロナ禍の影響から徐々に回復を図るとともに、海外大学との連携等によるグローバル化を推進しました。

【主な取組】

- ・コロナ禍以降最多の合計136人の学生を海外に派遣
- ・世界を舞台に各界の一線級で活躍するゲストスピーカーによる特別講座を実施
- ・短期留学生受入プログラム再開に伴い、在籍留学生数は606人まで回復
- ・令和6（2024）年度からの理学部生命科学科への秋入学の導入
- ・アラブ諸国では初となるエジプト日本科学技術大学と国際交流協定を締結

第三期中期目標期間（平成29～令和4年度）の主な実績（都立大）

■教育内容・成果（1-01～1-05 A）

豊かな教養・高度な専門性と社会への対応能力を備えた国際的にも通用する人材を育成するため、教育課程の見直しを図るなど、教育改革を推進しました。

【主な取組】

- ・平成30(2018)年度に**教育研究組織の再編成を実施**（工学分野の再編・統合、都市政策科学分野を再構築、都市教養学部の再編等）
- ・異分野の知を融合し、新たな知恵や価値を生み出す能力を育成する**大学院分野横断プログラムを開講**（超伝導理工学、生体理工学、超高齢社会学際プログラム）
- ・文理の枠を超えて構成されるプログラムを履修する「**文理教養プログラム**」の令和5(2023)年度からの開講準備
- ・Society5.0に対応した人材育成のため、**数理・データサイエンス副専攻コースを開講**

■教育の実施体制 **第三期S項目**（1-06 S）

- ・大学院キャリア科目の開講、博士後期課程修了後も一定期間研究活動等を継続できる博士研究員制度の導入、文部科学省等の制度を活用した経済的支援やキャリアパス形成支援等を行い、**博士後期課程活性化**に取り組みました。
- ・平成29(2017)年度に**教学IR推進室を設置**し、成績分布や学修成果等に関する部局等からの分析依頼に対応することで、教育改善に寄与しました。

■学生支援（1-10～1-15 B）

ボランティア活動支援、授業料減免等による経済的支援及びキャリア支援等の実施により、学生支援体制の充実を図りました。また、課外活動での事故を受け、安全管理について、リスク管理や緊急時の対応に関するレクチャー、組織マネジメントや安全な運営に関する講習会を学生に対して年間6回実施し、**継続的な注意喚起による危機管理意識等の向上**を図りました。

■入学者選抜（1-16～18 B）

平成29(2017)年度にアドミッション・センターを設置し、大学入学者選抜改革に対応するとともに、**多様な選抜・特別選抜による募集人員を全体の30%以上に拡充**し、志の高い学生を安定的に確保しました。

<KPI：多様な選抜・特別選抜の全募集人員に占める割合【30%】達成>

■東京都との連携推進（1-31～1-36 B）

- ・「**火山災害対策研究**」、「**島しょエリアの産業活性化プロジェクト**」及び「**将来の感染症対策に資する研究**」など大都市課題に資する学際的大型プロジェクトや持続可能な未来社会を切り拓くことが期待される研究を推進しました。
- ・**障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大**のため、体験教室の開催やパラアスリートへのインタビュー動画等の配信を行いました。



【パラスポーツ体験教室】

■産学公連携、生涯学習の推進（1-37～1-40-2 A）

- ・日野キャンパス新棟の**産学公連携スペース「TMU Innovation Hub」**の令和5(2023)年度開設に向けて準備を行いました。
- ・幅広く講座を提供する東京都立大学オープンユニバーシティ及び50歳以上の方を対象とした**東京都立大学プレミアム・カレッジ**において、生涯学習を推進しました。



【プレミアム・カレッジフィールドワークの様子】

■基礎研究力の維持・強化、課題解決型研究の推進（1-19～1-22 B）

- ・傾斜的研究費による国際共同研究の支援や海外科学ニュースサイト「EurekAlert!」における研究広報等の実施により、**国際共著論文割合は35%～45%程度の高い水準を維持**しました。

<KPI：国際共著論文の割合【33%以上】達成>

- ・教員の研究内容に応じた提案公募情報の個別提供、事業化計画の策定及び面接対策支援等、研究センター等の外部資金獲得を支援しました。

<KPI：研究センター設置数【12拠点】達成>

- ・令和2(2020)年度に、**国内最大級となるローカル5Gネットワーク環境を南大沢及び日野キャンパスに整備**し、ローカル5G事業に関するキックオフシンポジウムを開催するとともに、**ローカル5G環境を活用した研究を開始**しました。



【キックオフシンポジウム】

■研究実施体制（1-23～1-30 B）

URAを中心とした組織的かつ戦略的な研究支援や研究環境整備を行い、研究推進体制の充実を図りました。

【主な取組】

- ・**科研費新規採択率**（挑戦的研究（萌芽・開拓）を除く）は、令和元(2019)年度以降**30%以上を維持** **<KPI：科研費新規採択率【30%以上】達成>**

- ・文部科学省「**科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業**」及び国立研究開発法人科学技術振興機構「**次世代研究者挑戦的研究プログラム**」に採択

- ・制度を新設し、都立大の将来を担う若手研究者を中心に戦略的に研究費を配分

- ・卓越した研究実績等を有するトップ研究者の招へいによる研究力向上

- ・南大沢キャンパスに研究機器共用センターを設置、日野キャンパス新棟への日野研究機器共用センターの開設準備

- ・ローカル5G環境を民間企業等に無償提供する「**実証フィールド提供事業**」を実施



【実証フィールド提供事業】

■グローバル化の推進（1-41～1-50 B, 1-51～1-57 B）

国際通用性のある教育プログラムを提供するとともに、海外留学支援や外国人留学生の受入れを進め、グローバル化を推進しました。

【主な取組】

- ・留学が必須の国際副専攻コースの運営
- ・経済支援、留学準備講座や語学講座の実施による留学促進（**学生の海外派遣：第三期合計885人**）

- ・海外大学の学生等との議論や交流を通じ、学生の国際感覚を養うグローバル・コミュニケーション・キャンプやグローバル・ディスカッション・キャンプを実施

- ・**毎年度600名程度の外国人留学生が在籍**

- ・東京グローバルパートナー奨学金プログラムの新設

- ・**令和6(2024)年度からの理学部生命科学科への秋入学の導入**

令和4年度の主な実績（産技大）



東京都立
産業技術大学院大学

■教育に関する取組 ～産業の活性化に貢献する高度専門職業人の育成に向け、教育内容を充実させました～

教育内容・実施体制

■教育内容 (2-01 A)

起業・創業・事業承継などを通して新しい産業を創り出す高度専門職業人である「事業イノベーター」を含む産業技術専攻全体の**新カリキュラムを着実に実施し、産業界においてイノベーションを担う人材を輩出**しました。

■関係機関や他大学等との連携 (2-05 A)

イベントへの参加や他大学等との連携事業を実施し、相互交流を促進しました。

【主な取組】

- 東京都立産業技術研究センター主催の「TIRIクロスミーティング2022」において、AI技術等に関する研究発表やパネルディスカッションに参加
- 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』」において、**宮城大学及び公立小松大学と連携し、技能教育のためのデジタルコンテンツを作成**

■教育の評価・改善 (2-07 A, 2-08 B)

教育の評価・改善

- 令和2（2020）～令和3（2021）年度にかけて**新たに整えた内部質保証システムに基づき、業務改善及び向上させるための11個のPDCAサイクルの進捗管理**を実施しました。
- 教育の質の向上のためのPDCAサイクルを回した結果、**授業評価アンケートで過去最高評価**となりました。 **<全授業評価平均：4.46（5段階評価）>**
- 文部科学省補助事業「大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）『デジタルを活用した大学・高等教育高度化プラン』」で導入した教室機器等の具体的な操作・活用方法に関するFDフォーラムを開催し、教育の質の向上につなげました。
- 研究科再編後の産業技術専攻において、初の分野別認証評価を受審し、「適合」の評価を受けました。



【DX設備を導入した教室】

■入学者選抜に関する取組 ～高度専門職業人の資質を有する学生を確保しました～

入学者選抜

■志願者獲得に向けた効果的な広報活動の展開

令和4年度S項目

積極的な情報発信により、令和5（2023）年度4月入学の**産業技術専攻全体の志願倍率は過去最高の2.1倍**となり、コロナ禍でも十分な定員を確保しました。

(2-11 S)

【主な取組】

- SNS（Twitter、Facebook）で最新情報等を積極的に発信（Twitter：393投稿（前年度比354%）、Facebook：428投稿（前年度比486%））
- 教員紹介動画を新たに3本制作し、合計51本の動画コンテンツを公開
- 修了生の活躍を紹介するロールモデル集をリニューアル（新規16名掲載）
- オンラインによる大学院説明会を実施 **<大学院説明会参加者（12回開催）：過去最高 463名>**

■研究に関する取組 ～産業振興に資する開発型研究を推進しました～

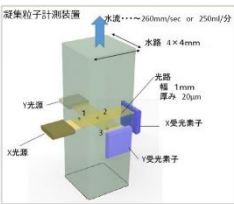
研究

■教育研究成果の発信、IRの推進 (2-13 B)

AIIT高度専門職人材教育研究センターにおいて、ブレンディッド・ラーニングの効果測定を行うなど学内の**IRを推進**するとともに、シンポジウムを開催し、産技大や他大学のIRの取組事例等に関する知見を共有しました。

■開発型研究の推進 (2-14 B)

- 研究分野の深化及び研究成果の社会への還元を目的として産業デザインと宇宙技術応用工学に関する**2つの研究所を新設し、合計11件の研究所を運営**しました。
- 大田区及び（公財）大田区産業振興協会主催「おおた研究・開発フェア」において、AIIT藻類研究所が微細藻類の培養環境等を計測する装置について出展しました。



【凝集粒子計測装置】

■社会貢献に関する取組 ～社会のニーズに応える学修環境を整備しました～

社会貢献・都連携

■都や区市町村等との連携及び情報発信の強化

対応報告事項

(2-15 A, 2-16 B)

- 三鷹市職員へのロジカルシンキング研修や島しょ部を対象としたオンデマンド研修等、**合計11講座の自治体職員向けの研修・公開講座を開催**しました。
- 東京都からの受託事業「東京都地域防災計画のIoD(Internet of Documents)化による防災力向上」を開始**しました。
- 産技大管理部門と法人部門が連携し、教員の研究や自治体との連携実績等の紹介動画を作成するとともに、**東京都、都関連団体及び区市町村に対して、連携実績等に関するメールマガジンを発行し、情報発信を強化**しました。

■リカレント教育の充実

令和4年度S項目

(2-18 S, 2-18-2 A)

- イノベーションを起こすビジネスマインドを養成する「**AIITシニアスタートアッププログラム（東京テックイノベーションプログラム）**」及び、文部科学省「DX等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」に採択された「**モノづくり分野の価値創造力育成のためのAIIT型リスキリングプログラム**」を履修証明プログラムとして開講しました。

■グローバル化に関する取組 ～アジア諸国等の大学との連携を強化しました～

グローバル化

■グローバル人材を育成する教育の推進 (2-19 A)

- アジア諸国におけるSDGsプロジェクトや未来の地球的課題を踏まえたエネルギーマネジメントなどをテーマとして、オンラインを活用しながら、4件の**グローバルPBLを実施**しました。
- 学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標について、令和4（2022）年度は96.1%の修了生が基準を達成しました。



【APEN理事会の様子】

■アジア諸国等の大学等との連携 (2-20 A)

- アジア高度専門職人材育成ネットワーク（APEN）を活用した国際交流やBina Nusantara University（インドネシア）との産業技術人材育成フォーラムの実施するなど、**アジア諸国等の大学等との連携を強化**しました。

■教育内容・成果 (2-01～2-03 A)

社会のニーズを反映し研究科再編を行うなど、実践的な教育を推進しました。

【主な取組】

- ・令和2（2020）年度に**企業における新規事業開発や起業・創業・事業承継を担う人材を育成する新たな学位プログラムを導入し、1専攻3コース体制へ研究科の再編**を行い、令和3（2021）年度に初めての修了生を輩出
- ・先駆者として取り組んできた**産技大のPBL型教育に関して、「AIIT PBL Method」として体系化**し、日本語版及び英語版をホームページで公開
- ・対面とオンラインを組み合わせたブレンディッド・ラーニング等、アクティブ・ラーニングを積極的に導入 **<KPI：アクティブ・ラーニング導入授業【8割】達成>**

■教育の実施体制 (2-04～2-06 A)

文部科学省補助事業「**大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）『デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン』**」における産技高専及び複数大学で連携した技能教育のためのデジタルコンテンツ作成等、相互交流による一層効果的な教育体制を整備しました。 **<KPI：新たな連携事業【3つ以上】達成>**

■教育の評価・改善 (2-07～2-08 A)

内部質保証室を設置し、教育研究等のPDCAサイクルによるマネジメントを強化するとともに、FDフォーラムや学生授業評価アンケートを実施し、教育の質の向上を図りました。 **<KPI：学生授業評価【平均4以上（5段階）】達成>**

■学修環境整備 (2-09～2-10 A)

全ての講義の録画を視聴等できる講義支援システムの運用、秋葉原サテライトキャンパスにおける遠隔授業やコロナ禍の多同時性・双方向性を確保したオンライン授業の実施等、社会人が学びやすい学修環境を提供しました。

■入学者選抜 第三期S項目 (2-11 S)

効果的な広報活動等により、大学全体の入試志願者数は、平成29（2017）年度以前までは4月入学の志願倍率が1倍前後であったが、それ以降は**安定して志願倍率が1.5倍程度となり、令和5（2023）年度4月入学においては、志願倍率は2.1倍を達成**しました。 **<KPI：大学院説明会参加者【年間250人】達成>**

■教育手法に関する研究や開発型研究の推進 (2-12～2-14 B)

高度専門職人材教育に関する研究を推進するとともに、産業振興に資する開発型研究の取組を進めました。

【主な取組】

- ・高度専門職人材教育に関する研究や成果発信を目的とし、**AIIT高度専門職人材教育研究センターを設置**
- ・同センターにおいて、入学志願者に関するデータ分析やブレンディッド・ラーニングの効果測定等を行うなど、**IRを推進**するとともに、IRに関するシンポジウムを開催
- ・開発型研究を合計11件運営（令和4（2022）年度時点） **<KPI：研究所の設置・運営【4つ以上】達成>**



【シンポジウム案内】

■東京都や区市町村との連携 (2-15～2-16 B)

東京都や区市町村等と連携し、中小企業振興や人材育成に貢献しました。

【主な取組】

- ・東京都等主催の「産業交流展」や東京都立産業技術研究センター主催の「TIRI クロスミーティング」に参画し、産学公連携・OPI活動の紹介や研究成果を発表
- ・品川区や大田区、三鷹ネットワーク大学と連携し、中小企業振興や技術支援に係る連携講座を実施
- ・**東京都の管理職研修や自治体等職員向けのロジカルシンキング研修、島しょ部地域へのオンデマンド形式による情報セキュリティ研修等を実施** **<KPI：都・区市町村等の職員向け研修等【年間10講座】達成>**

■リカレント教育や学修コミュニティの充実 (2-17～2-18-2 A)

広く社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場を提供するとともに、修了生の自主的な学修と研究活動を支援しました。

【主な取組】

- ・ICT、ものづくり・デザイン、及び起業・創業・企業新事業・事業承継分野における最新のトピックスを取り上げるAIITフォーラム（公開講座）を開催 **<KPI：AIITフォーラム参加者数【年間600人程度】達成>**
- ・修了生が主催する研究会である修了生コミュニティ制度を新設
- ・**リスキングプログラムや健康寿命デザイン講座、主にシニア層をターゲットとしたスタートアッププログラム等、社会のニーズに応じた5つの履修証明プログラムを実施**



【履修証明プログラム案内】



【檜原村でのPBLキャンプの様子（AIITシニアスタートアッププログラム）】

■グローバル化への対応 (2-19～2-20 A)

グローバル人材の育成を推進するとともに、アジア諸国等の大学等の連携を強化しました。

【主な取組】

- ・アジア高度専門職人材育成ネットワーク（APEN）を活用した国際交流、アジア諸国等からの視察受入
- ・アジアやアフリカに対するデジタルSDGsの政策提言等をテーマに**グローバルPBLを実施**
- ・学生がグローバル人材として獲得すべき能力指標の作成及び活用 **<KPI：グローバル人材能力指標の基準を満たす学生割合【8割】達成>**



【APEN、東レ九州立大学 共同開催】



【第74回国連総会議長、国連日本政府代表部大使他視察】

令和4年度の主な実績（産技高専）

■教育に関する取組（教育の内容、学生支援） ～産業界のニーズに応える新たなカリキュラムを展開しました～

教育内容

■新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成(3-00 A)

品川キャンパスでは本科教育コース再編後の新コースの教育を開始しました。荒川キャンパスでは他機関と連携した医工連携のリカレント教育講座を、令和3（2021）年度よりも増やし、11講座を開講しました。

■新たな職業教育プログラムの実施 **令和4年度S項目** (3-01 S)

産業界や社会のニーズに応える**2つの職業教育プログラムを実施し、ものづくり技術者の育成に向けた教育を推進**しました。

【主な取組】

- ・情報セキュリティ技術者育成プログラムで**本科12名と、専攻科2名の修了生輩出**、情報セキュリティ関連企業へ就職、専攻科へ進学 **<履修生40名>**
- ・航空技術者育成プログラムで**8名の修了生を輩出**、航空関連企業へ就職、専攻科へ進学 **<履修生31名>**
- ・社会人向けの情報セキュリティ教育を実施



【航空技術者育成プログラム】

教育体制・学生支援

■課題発見・解決型実践的教育の展開 (3-04 A)

感染症対策を施した上で内容に応じてオンラインと対面を組み合わせ、アクティブ・ラーニングやデザイン思考を取り入れた**課題発見・解決型の実践的教育を展開**しました。また、デジタル技術を活用した新たな実習環境の構築も実施し、実験実習型の授業にて活用しました。

(3-13 A)



【高専デザコン研究部】

■多様な課外活動の支援・経済的支援の拡充

課外活動経費や資格試験受験料等の経済的支援を実施するとともに、学生向けに奨学金等に関する情報の発信を行いました。また、**電話やオンラインを活用した学生相談**の実施や、クラブ活動指導員による充実した指導支援を行いました。

<高専ロボコン2022関東甲信越地区大会で特別賞 全国高専デザコン2022AMデザイン部門優秀賞>



【ロボット研究同好会】

■教育に関する取組（入学者選抜）

入学者選抜

■多様な学生の確保 (3-15 S, 3-16 A, 3-17 A)

意欲ある志願者確保のため、**特別推薦入試や、ホームページやSNSを活用した積極的な広報の実施、学生広報チームの立ち上げ**を行いました。

【主な取組】

- ・品川区、荒川区との協定に基づき、**特別推薦入試制度による4名（各キャンパス2名ずつ）の学生受入れ** **令和4年度S項目**
- ・コースや課外活動等の情報発信における、ローテーション制 **対応報告事項**での情報提供体制の構築により、キャンパス及びコース間の発信数を均等化
- ・受検生からのニーズに沿った更なる情報発信を目的とした学生広報チームの立ち上げ

■研究に関する取組 ～ものづくりスペシャリストの育成に資する研究を推進しました～

研究

■研究活動の活性化、若手教員への支援 (3-18 A)

- ・**特別研究期間制度の取得を促進するための取得要件の見直しを行い、令和5（2023）年度からの利用者数が増加**しました。
- ・若手教員を中心に科研費獲得のための応募書類添削や個別面談を実施しました。

■都立大・産技大との共同研究 (3-20 B)

- ・「大学・高専連携事業基金」事業「第三期共同研究～専攻科Co-Labo.」において3件の共同研究を開始しました。
- ・共同研究の更なる活性化及び連携強化を目的に大学教員と高専教員との新たなマッチングの仕組みを構築しました。

■グローバル化に関する取組 ～世界で活躍できる技術者を育成しました～

グローバル化

■国際的に活躍できる技術者の育成(3-05 A, 3-27 A)

実践的で相互関連性の高い2つの海外体験プログラムを、対面またはオンラインで実施しました。

【主な取組】

- ・グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)は、都立大生1名及び産技大生1名のリーダーとチームを組み、感染症対策を講じた上でシンガポールへ渡航し実施 **<参加者15名>**
- ・インターナショナル・エデュケーション・プログラム (IEP) は、対面とオンラインを組み合わせたプログラムを実施。少人数でデザインシンキングを行う、課題解決型グループディスカッション等を取り入れることで、GCPへの接続を強化 **<参加者40名>**



【GCPの様子】

■社会貢献に関する取組 ～地域と連携して、ものづくり人材を育成しました～

社会貢献

■若年層の情報セキュリティ技術者教育 (3-22 A)

感染症対策を行い、中学生向けの体験型情報セキュリティイベント「**サイバーセキュリティTOKYO for Junior**」（2日間）と「**ICT 基礎Lab. for Junior**」（計5回）を開催しました。

■地域貢献等 (3-24 A)

感染症対策を行い、中小企業の技術者を対象とした「若手技術者支援のための講座」（5講座）やオープンカレッジ講座（品川2講座、荒川3講座）、オンラインでのサイバーセキュリティセミナーを実施しました。

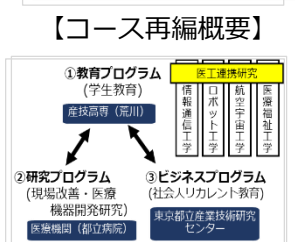
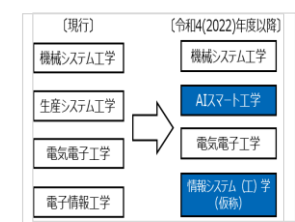


【サイバーセキュリティ TOKYO for Juniorの様子】

■教育内容及び成果 第三期S項目 (3-01～3-06 S)

社会のニーズに対応した実践的な知識・技術の修得を目的とした教育プログラムの構築・検証を行いました。

- 【主な取組】
- 品川キャンパスでは、**本科教育コースの再編**を行い、生産システム工学コース及び電子情報工学コースを廃止し、AIスマート工学コースと情報システム工学コースを新たに開講しました。
 - 荒川キャンパスでは、令和3（2021）年度から、次世代の医療機器の開発を担う技術者の育成を目的としたコース横断型の**医工連携教育・研究プロジェクト**を開始しました。
 - 実践的な知識・技術の修得を目的とした**職業教育プログラムを実施**しました。
 情報セキュリティ技術者育成プログラム：5年間で本科46人、専攻科6人、合わせて52人の修了者を輩出
 航空技術者育成プログラム：4年間で30人の修了者を輩出
 - 技術者教育の国際的レベル保障の枠組みである**JABEEの認定審査を令和3（2021）年度に受審し認定を受けました。**
 - アクティブラーニングやデザイン思考を取り入れたエンジニアリングデザイン教育を実施し、学生の課題発見・解決力の向上に取り組みました。
 - 実験実習型の授業にてデジタル技術を活用した実習教育DXを導入しました。



■教育の実施体制 (3-07～3-09 B)

産業界をはじめとする社会のニーズに応じているか等を検証し学校運営に活かすことを目的とした有識者等で構成される運営協力者会議を毎年度開催し、受けた評価や意見を各コース等へフィードバックし、教育内容の改善に取り組みました。

■教育の質の評価・改善 (3-10～3-12 B)

令和元（2019）年度に**機関別認証評価を受審し適合の認証を受けました。** その評価結果及び新たに導入した学生が自身の学習到達度を自己評価するルーブリック評価の結果の活用、教員研修を実施など、教育の質の向上に取り組みました。
<KPI：昇任者研修及び管理職研修の参加率毎年度【100%】達成>
<KPI：個別課題研修の参加率毎年度【100%】達成>

■学生支援 (3-13～3-14 A)

- 全ての学生が安心して充実した学生生活を送ることができるよう支援を行いました。
- 【主な取組】
- クラブ活動の指導体制の充実を目的としたクラブ活動指導員を導入
 - 課外活動経費や資格試験受験料等の経済的支援の実施
 - キャリア支援講座の開設及びインターンシップのサポート

■入学者選抜 (3-15～3-17 A)

品川区及び荒川区との協定により実施している**特別推薦入試制度の募集人員を拡大**しました。
<KPI：特別推薦入試募集人員【4人】達成>
 また、女子学生の志願者確保に向けた取組として、公式ホームページにて女子学生に向けた情報をまとめたページを作成するなどの広報活動を行い、令和3（2021）年度には女子入学者の割合が過去最高の15.3%となりました。

研究



■研究 (3-18～3-20 B)

「ものづくりスペシャリストの育成」に貢献する研究活動の推進に取り組みました。


- 【主な取組】
- 特別研究期間制度について、希望教員がより柔軟に取得できるよう要件の見直しとそれに伴う規程の改正を行いました。
 - 都立大・産技大との新たな共同研究として、「大学・高専連携事業基金」事業「第三期共同研究～専攻科Co-Labo.」を実施しました。

社会貢献・都連携

■小中学生向け教育プログラムやリカレント教育の実施 (3-21～3-22 A)

- 特定課題研究において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に資するプロジェクト型教育研究として、荒川区の中学校と連携して、車いす利用者のスムーズな移動を支援する「快適環境マップ」の開発を行いました。
<KPI：システム開発【2019年度】完成>

 【環境快適マップ】
- 中学生向けの体験型情報セキュリティ研修「**サイバーセキュリティTOKYO for Junior**」や「**ICT基礎Lab. for Junior**」を開催しました。

 【サイバーセキュリティ TOKYO for Junior】
- リカレント教育の一環として、都職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施し、高専で開発した疑似マルウェア感染体験システムを活用しました。

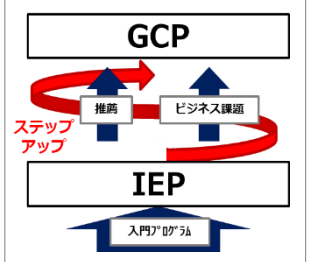
■社会貢献 (3-23～3-24 A)

品川区・大田区と連携した「若手技術者支援のための講座」や警視庁・品川区及び東京商工会議所品川支部と連携した実体験型サイバーセキュリティセミナー、技術者のためのオープンカレッジ講座を開講し、学び直しのための場の提供と、地元企業の人材育成の支援を行いました。
<KPI：オープンカレッジ講座における技術者育成講座数【倍増】達成>

 【ICT基礎Labo. for Junior】

グローバル化

■グローバル (3-25～3-27 A)

- 専門英語をより身近に体験できるよう、専攻科1年生が全員履修する科目の一部で英語での講義を実施しました。（3-06再掲）
- 相互関連性を考慮した2つの海外体験プログラム（**グローバル・コミュニケーション・プログラム（GCP）**及び**インターナショナル・エデュケーション・プログラム（IEP）**）を実施しました。コロナ禍においては、オンラインを活用したプログラムへ変更しながら実施しました。
 (3-05、3-09再掲)



令和4年度の主な実績（法人共通（組織運営基盤））

■ 組織運営の改善に関する取組 ～法人の更なる飛躍の実現に向けた取組を推進しました～

戦略的な法人運営

■ 東京都等とのマッチング機能の強化 (4-01-2 A)

行政ニーズを的確に把握するための都へのニーズ調査や調査研究の提案など、都と法人のマッチングを進め、**新たな分野で共同研究を開始**しました。また、自治体との連携事例や実績等を紹介する「連携事業ガイド」やメールマガジンの発行、教員紹介動画の作成を行いました。



【教員紹介動画】

■ 法人及び各大学・高専の運営体制強化 (4-01 B, 4-02 B)

各大学・高専・法人事務局に設置された各WG及び横断的に組織した法人検討会にて第四期中期計画の検討を進め、教育研究の推進や地域社会の発展に資する**中期計画を策定**しました。

■ 2大学1高専の連携の推進 (4-12 B)

令和2（2020）年度に策定した「新たな連携の在り方」を踏まえ、入試連携や機器共用等による連携強化に向けて、各大学・高専の教職員とヒアリング及び意見交換を行いました。

■ 事務の効率化・合理化、施設設備に関する取組

業務改善・施設等整備

■ 効率的な業務運営の推進 (4-14 B, 4-13 A)

多様な働き方の実現や業務の効率化へ向け、新たなシステム及び制度の検討や導入を行うなど、働き方改革を推進しました。

【主な取組】

- 働き方改革の推進に特に貢献した取組を表彰する「**第1回ワークプラクティス・オブザイヤー**」の実施と事例の共有
- 契約・会計事務における**ハンコレス・ペーパーレスの導入**
- 旅費システムの本格稼働に向けた準備

■ 都立大のキャンパス整備 (4-24 B)

都立大南大沢キャンパス事務室再配置計画を具体化するとともに、老朽化に対応する更新工事を行いました。また、令和5（2023）年度中の供用開始に向けて、**日野キャンパスの新棟の本体工事が完了**しました。【日野キャンパス新棟外観】



■ その他業務運営に関する取組

安全管理

■ 危険物取扱ルールの周知 評価結果反映事項 対応報告事項 (4-25 B)

都立大南大沢キャンパスで発生した火災事故を受け、消防計画の見直しと危険物予防規程の改正を行い、消防への届出と認可の取得をしました。また、実験廃棄物を取り扱う者は、化学物質・危険物等取扱者講習会の受講を必須としました。

■ 防災・防犯体制の強化 (4-26 A)

都立大南大沢キャンパスで発生した襲撃事件を受け、南大沢警察署の協力の下での不審者対応訓練の実施や、防犯カメラの増強、警備の強化などを行いました。



【不審者対応訓練の様子】

持続可能な社会の実現

■ 持続可能な社会の実現に向けた取組 令和4年度S項目 (4-01-2 A, 4-27 S)

グローバル社会における共通課題である持続可能な社会の実現に向けた調査研究の推進に資する支援を実施するとともに、令和3（2021）年度に発出した国公立大学初の気候非常事態宣言等に基づき、法人としてのカーボンニュートラルの実現に向けた取組を推進しました。

【主な取組】

- カーボンニュートラル実行計画策定検討委員会を設置**
- 「東京都公立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」を策定**
- 環境省が定める「環境報告ガイドライン」に則った**「環境報告書2022」を作成**
- 太陽光発電の発電容量の増強を行うなど、再生可能エネルギー利用の拡大



【カーボンニュートラル推進プラン】



【環境報告書2022】

■ 財務内容の改善、自己点検・評価及び情報の提供に関する取組

戦略的な情報発信

■ 法人、学校ごとの戦略的な情報発信 (4-23 A)

各大学・高専の認知度及びプレゼンスを一層高めるため、各種広報媒体やソーシャルメディアを活用した広報を展開しました。また、都立大では広報重点企画に「**牧野標本館**」と「SDGs特集」を設定し積極的に広報活動を行いました。



【牧野標本館特集ページ】

■ 同窓会等との連携を強化 (4-23-2 A)

愛校心の醸成を図るため、各大学・高専においてホームカミングデーの開催や学生と同窓生の交流の場を設けるなどの連携強化を行いました。

■ 寄附金獲得額の拡大 (4-16 A)

同窓会と連携して「寄附への感謝の集い」を初めて開催し、寄附者延べ13人に感謝状を贈呈しました。

■ 研究費不正使用の防止 (4-30 B)

研究費の管理・運営に関わる全ての教職員を対象に研究費不正使用防止に関するコンプライアンス研修を実施し、受講率は教員・職員ともに100%となりました。また、研究費不正使用防止に関するコンプライアンスカードやポスターを作成し、教職員等へ配布することで、徹底した周知を行いました。

■ 情報セキュリティ対策の強化 評価結果反映事項 (4-31 B)

情報漏洩防止にかかる研修を複数回実施するとともに、誤送信事故等を踏まえ、電子メール送信時におけるルールの改正と、送信事故防止に向けた機能の追加を行いました。また、世界的なサイバー攻撃の増加を踏まえ、勉強会の実施や、都立大公式ホームページ等の一部を対象とした脆弱性診断を行いました。

法令遵守

■ 組織運営の改善 (4-01～4-08 B)

理事長のリーダーシップの下、法人全体の企画立案、財務運営等を担う法人運営部門をより有効に機能させながら、法人を取り巻く環境の変化を見据え、中期計画の変更を行うなど、戦略的な組織運営を行いました。

【主な取組】

- ・令和2（2020）年度に両大学及び法人の**名称変更を行いました**。
- ・名称変更及び各大学・高専の更なる発展に向け、**第三期中期計画の変更を行いました**。
- ・**都との連携強化に向けた事務組織体制の整備**を行い、東京都下水道局をはじめとする関係機関との**包括連携協定の締結や共同研究の実施を行いました**。
- ・法人のコンプライアンスの確保及び向上のため、公益通報などの法的措置が必要となる案件に関する窓口を一本化するなどの体制の整備を実施しました。

■ 人事制度の運用改善

教職員一人一人がその能力を發揮し得るよう人事制度の不断の見直しを行うとともに、研修等を活用した人材の育成に取り組みました。

【主な取組】

- ・女性の活躍を推進するため、育児休業等に関する制度の充実や仕事との両立支援に関する取組を周知するなど、女性が活躍しやすい環境の整備に取り組みました。
<KPI：女性教員比率【20%以上】達成>
- ・国際化に対応する職員の育成を図るため、英語学習研修を実施しました。
<KPI：TOEICスコア600点以上取得職員の割合【25%以上】達成>

■ 2大学1高専の連携の推進 (4-09～4-12 A)

連携の推進のため、2大学1高専の事務職員によるワーキンググループにて意見交換を行い、今後の中長期的な目標と取組案、検討体制を示した「新たな連携の在り方」を策定しました。

■ 事務の効率化・合理化 (4-13～4-14 A)

日常業務をより効率的かつ効果的に実施できるよう、新財務会計システムをはじめとする**新たなシステムの導入**による効率的な業務運営環境の整備や、**テレワーク環境の整備**等の働き方改革の推進に取り組みました。

■ 持続可能な社会の実現

2050年までのカーボンニュートラルを目指し、率先して持続可能な社会の実現に貢献すべく、取組を実施しました。

【主な取組】

- ・**国公立大学初の気候非常事態を宣言**
- ・TMUサステナブル研究推進機構を設置し、持続可能な社会の実現に資する調査研究の推進に向けた支援を実施
- ・「環境報告書2022」を作成
- ・「東京都立大学法人カーボンニュートラル推進プラン」を策定
- ・関西大学とのオンライン環境シンポジウムを開催



【気候非常事態宣言】

■ 戦略的な情報発信 (4-21～4-23-2 B)

広報体制を整理し、**認知度及びブランド力の向上**に取り組みました。

【主な取組】

- ・各大学・高専の取組や教育研究活動等のPR動画作成
- ・名称変更を訴求するポスターや告知動画の作成
- ・**新シンボルマークの決定**
- ・生涯現役都市の実現に向けた「100歳大学」の取組の一環として、リンダ・グラットン氏を招いた特別講演会の開催



【各校名称変更の告知兼PRの動画】

■ 同窓会等との連携を強化

都立大のホームカミングデーや高専の卒業生による就職相談といった卒業生と在学生・教職員等の交流の場を設け、連携の強化と愛校心の醸成に取り組みました。

■ 寄附金獲得額の拡大 (4-15～4-20 B)

インターネット上で寄附の申し込みが可能となる**寄附金受付システムを導入**するなどの寄附者にとってより支援しやすい環境の整備を行うとともに、広報活動を行いました。

【主な取組】

- ・**新型コロナウイルス緊急支援基金の設置**
- ・寄附募集のポスターの作成
- ・寄附金制度の案内動画の作成
- ・寄附者銘板の設置



【寄附金制度案内動画】 【都立大寄附者銘板】

■ 自己点検・評価

前年度の業務実績等に関する評価委員会の意見や対応報告事項を、当該年度の業務運営や次年度計画に活用し、継続的な見直しと質の向上に取り組みました。

■ 施設整備 (4-24～4-31 B)

学生及び教員の快適な学修・研究環境の維持及び新たな教育研究ニーズに対応するため、都立大のキャンパスの機能や魅力向上を目的としたキャンパスグランドデザインの策定とそれに基づく施設の再配置計画の作成、日野キャンパスにおける新棟の建設及び高専荒川キャンパス航空実習館の整備などを行いました。



【航空実習館「汐風」】

■ 安全管理

都立大南大沢キャンパスで発生した火災事故や襲撃事件を受け、「危険物に関する**安全対策**」や危険物を取り扱う学科における研究室ごとの**危険物取扱いに関する詳細なガイドラインの策定、危機管理マニュアルの更新**を行うなど、対策の強化に取り組みました。

■ 研究コンプライアンス

研究活動における不正の防止及び研究費の不正使用の防止に向けた取組を行いました。

【主な取組】

- ・研究倫理研修を実施
- ・研究費不正使用防止に関するコンプライアンス研修資料の見直しと実施
- ・出張先での用務の確認の徹底
- ・研究論文などの著作物内に剽窃・盗用が疑われる部分がないかをチェックする学術論文剽窃検知ツールの利用促進

■ 情報セキュリティ

複数回発生している情報セキュリティ事故の反省に立ち、**メール誤送信防止ソフトの導入や研修の実施、標的型メール攻撃訓練**など、情報セキュリティ意識の向上と技術的セキュリティ強化を実施しました。